

アミーゴ会だより

2010年4月
(メルマガを改題)
No. 2: 2010-II



発行人: 上原尚剛
編集長: 渡辺道雄
編集人: 河嶋正之
事務局: 関口重雄

立ちあがった「御宿アミーゴ会」

御宿アミーゴ会 幹事 古川 範男

山のあなたの空遠く
幸い住むと人のいう
ああ我ひとと尋(と)めゆきて
涙さしぐみかえりきぬ
山のあなたになお遠く
幸い住むと人のいう

これは上田敏訳のカール・ブッセの詩です。誰でも一度は口ずさんだことがあると思います。私も少年時代にこの詩にめぐり会い、そこはかたない郷愁とロマンを掻き立てられたことを鮮やかに覚えています。ここにいう「山」は「海」でも良い訳で、まだ見ぬ世界に対する憧れとある種の恐れを詠っています。

考えてみれば、この未知への憧憬、関心こそが新しい世界の発見や人と人との交流に発展していくのではないのでしょうか。私はおよそ3年前に御宿の寺を預かりました。当初は毎日御宿の美しい浜辺を散歩しては、少年のように海の彼方に思いを馳せていたものです。「海の向こうのカリフォルニアやメキシコに住む人々はどんなことを考え、今どんなことをしているのだろう」。

その後、町の企画委員になり、1609年に人類愛に溢れたガレオン船の救難事件があったことや、1978年にはメキシコのロペス大統領(当時)が御宿に來訪し、アカプルコ市と姉妹都市提携をしたことなどを知るに及びました。

ところが残念なことに、こうした歴史的事実が十分に顕彰されているとは言えず、町民の多くは「1609年?何それ」という状態でしたし、ましてや日本、世界の中でどれほどの人が知っているか甚だ疑問。支倉常長の遣欧使節のことは知っていても、ドン・ロドリゴ救難のことは忘却の彼方でしょう。373人のうち村民の数を上回る317人もの人を助けたという美談は、その後の支倉常長渡欧にもつながる歴史的事件であって、教科書に載ってもおかしくはない。これでは余りにもったいない。

昨年の「400周年記念事業」も我々の力不足か、町役場主導で終始し、住民の盛り上がり欠けたように思います。当事者には既にして「やれやれお疲れ様」の雰囲気漂っています。このままでは一過性の出来事で終わってしまう。

そんな危機感を抱いていたところ、土屋武彌氏から「御宿アミーゴ会」の話が降って沸きました。思いは同じです。すぐに賛同しました。

これからは歴史的事実の顕彰を続け、情報を発信し、多くの方が御宿を振り返るよすがとなるような展開を考えています。そのためには勿論、「メキシコ・日本アミーゴ会」の皆さんのお知恵も拝借なくてはなりません。

「良質な観光地・御宿」を実現するためには歩みを留めてはられないと自戒しています。

御宿アミーゴ会と手を携えて

御宿町在住の土屋武彌様から昨年12月頃「日墨交流の嚆矢となった御宿町に交流400周年を機に“御宿アミーゴ会”を設立し、御宿町とメキシコの間で、官に加えて民間ベースでの友好・親善・文化・経済協力を行うことを考えている。幸いメキシコ・日本アミーゴ会には長年、メキシコと文化・経済両面で交流されてきた会員が多数おられる。是非相互に協力してその実を挙げたい」との提案がありました。当会も御宿町の方々と一緒に日墨交流の促進が図れないものかと常々思っておりましたので、幹事会に諮り直ちに賛同しました。組織的には、御宿町の方が個人で「御宿アミーゴ会」に入会し、同会が団体として当会会員となります。「御宿アミーゴ会」は09年12月24日に設立(貝塚嘉軒代表幹事)され、1月には黒沼ユリ子氏が主宰する御宿一大多喜メキシコ友好コンサートを開催。2月のカルデロン大統領訪日時の表敬訪問で大統領より訪墨を招請され、御宿町の方が9月に訪問される予定です。今後、メキシコの文化・経済・音楽等を当会会員が「御宿アミーゴ会」の会員にレクチャーする計画もあります。どのように協力関係をこれから築き上げるか、双方知恵を絞りながら日墨交流の拡大と深化に向けて前向きに進みたいと考えています。事務局長 関口重雄

= 目次(案) =

1. 御宿アミーゴ会の発足
2. 西日本地区アミーゴ会だより
3. メキシコ・フライト基礎情報
4. メキシコ三菱電機工場増設
5. カルデロン大統領公式訪日
6. FOODEX メキシコ展示館
7. メキシコ経済トピックス
8. アミーゴ会の活動報告

西日本地区アミーゴ会便り

西日本事務局 伊藤宜則

関西に西日本地区のアミーゴ会が有るようだが？

前回のアミーゴ会便りの幹事会メンバー表に「関西地区幹事・・・」とあるが何をやってんだらう？とお思いの方の疑惑？にお答えします。

西日本地区アミーゴ会グループ設立

関西地区のメキシコ関連行事の出現頻度は関東地区に比べ非常に少なく、メキシコ同窓生としては寂しい限りでしたが、アミーゴ会設立に先立つこと3年の1997年の9月に積水ハウス(の関連会社)が音頭をとりJR大阪駅近くの新梅田シティで「フィエスタメヒカーナ」が始まり、関西地区に年に3日限りのメキシコが生まれました。

アミーゴ会設立3年後の2003年5月16日、西日本でも会員間の親睦を深めるために関西グループを設立する懇親会がメキシコ料理店「エル・チャロ <http://elcharro.co.jp/>」で開かれました。産湯の代わりにテキーラが使われたためか、以後の活動はもっぱら「Pachanga」が主体行事になりましたが、他に独自行事を行う力も金も集人力もないグループですので「Tiene razon y Ni modo」と納得しています。

西日本地区アミーゴ会グループの活動

基本的には、フィエスタメヒカーナの集客力に乗っかり、会場近くでの「(本)親睦会」と「忘年会か新年会」加えて、勢いがあれば6月頃に「プチ親睦会」を開催するという「Pachanga」活動を行ってきました。

記念すべき第一回の親睦会は、第7回フィエスタメヒカーナが開催されている2003年9月15日に、フィエスタ会場ビル内のパーティールームで開催されました。当日はフィエスタで独立記念日の雄叫びをするために大阪に駆けつけられたカルロス・デ・イカサ駐日メキシコ大使(当時)にもご臨席をいただき、本部の上原会長共々34名



の参加者と楽しいひとときを過ごしました。また、アトラクションとして大阪在住のメキシコ人弾き語り歌手エミリオ・モラレスさん(<http://www.emiliomorales.net/>)の演奏も披露され、メキシコの雰囲気演出してくれました。この時の親睦会の特徴は、ご夫婦で参加された会員が多かったことです。

2004年は03年と同じ会場で開催され、過去最大の37名の参加がありました。アトラクションはフィエスタに毎年参加しているモレロス州立自治大学の学生さんグループ El Parenque のマリンバ演奏。大阪府の北にある箕面市はクエルナバカ市と姉妹都市を組んでおり、最初の頃は舞踊団とマリンバ演奏者を派遣してくれましたが、最近ではマリンバグループだけになりました。また、05年からは、パーティールームの賃貸料が本来の賃料になり会費が高額になることが予想されたため、また会費が高いことが会員の参加が少ない結果に結びついている可

能性があるので、会場を地下飲食街のレストランに変更し、会費を5,000円に抑えることにしました。

2005年の親睦会は22名の参加で、遠方の岐阜県からご家族5人揃って参加された会員もおられました。西日本地区の最大かつ唯一と言っても良い活動である親睦会の悩みは、参加者集めに苦勞をすることです。また、リピーターも少ないことで、その原因として親睦会が楽しくないのか、会費の割には食事が貧弱なのか、本質的な問題が何かについては結論付けが出来ていません。



「本親睦会」は今まで毎年フィエスタ会場の至近距離にあるレストランで開催してきましたが、一角を貸切にする必要があるため30名の最低人員が必要条件になっています。この30名にいつも悩んでいます。フィエスタ会場から離れた場所に変更すれば30人の枠は20人でも可能になるかもしれませんが、フィエスタも有るから親睦会に参加される方が多いのではないかと考えており、会場から離れることは考えられません。また、このご時世、フィエスタも毎年赤字決算のため開催自体が危ぶまれた時期もあり、フィエスタ頼みの親睦会も前途は不安要素が一杯です。

参加者不足に関してはプチ親睦会も同様で、ある年は幹事会のメンバーのみしか参加者が集まらず、幹事会と変わりが無いため中止したこともありました。現在は事前に参加のご都合をお聞きし、ある程度人が集まれば何らかの「メキシコ」というキャッチフレーズがつくお店、例えば「Chico & Charley <http://www.senko.co.jp/chico/>」などで開催しております。

西日本地区アミーゴ会幹事会

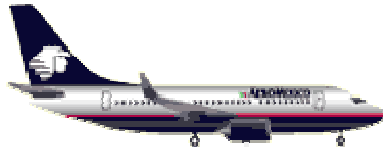
東京での幹事会の報告会の形式で都度開催しています。会場は多くの場合、幹事の出身会社の厚生施設(食堂の一角)を利用させて頂き、夕食会を兼ねてワインなどを傾けながらワイワイガヤガヤと楽しくやっています。以上が西日本の活動の概要です。

参考情報:友好団体

中日本と西日本のメキシコ友好団体をご紹介します。

- 1.名古屋メキシコ協会
- 2.東大阪とメキシコふれあいの会
- 3.箕面メキシコ友の会 (モラレス州立自治大学のマリンバ奏者を受け入れ。 <http://mexicotomo.hp.infoseek.co.jp/>)。
- 4.奈良市シルクロード財団(NIFS)ホストファミリー (メキシコ限定ではありませんが、どこの国の人・団体でもホームステイを受け入れ。これまでフィエスタに出演したオアハカ舞踊団一行数十人以上を受け入れた実績もあります。 <http://www.nifs.or.jp/volunteer>)。 (了)

メキシコ往復フライト基礎情報



会員 田中睦代
幹事 鴻巣勝明

日本航空 JAL のメキシコ直行フライトが今年 1 月 15 日に完全撤退しました……。落胆されている方も多いかと思いますが、そこで JAL が撤退した後、今後はどうやってメキシコへ行けばいいのだ〜!!と途方に泣いておられるはず? の会員に「メキシコと成田のフライト情報」をご紹介します。これら日墨間の航空便情報・乗継ぎ便情報などは(株)メキシコ観光および在墨日系旅行社から提供された情報をもとにまとめました。ご利用に際しては、出発日より変化するフライトスケジュールや料金などを旅行代理店や航空会社に必ずご確認ください。

直行便の情報

アエロメキシコ航空 AM の直行便が 3 月に週 3 便となり 7 月には週 4 便に増便されて、ますます便利になります。

往路 AM57(月火水土): 成田 15:25→メキシコシティ 14:20

復路 AM58(日月木土): メキシコシティ 23:10→成田 06:45

注: 成田着は翌々日の早朝

これまでは週 2 便だったため 8 日間以上の長い日程でしか使えなかったのですが、週 4 便に増えたことで 3 泊 5 日などのお気軽弾丸旅行にも利用できます。また成田からメキシコシティへは完全直行で超ラクチンですが、帰りの成田便はティファナで給油着陸するので乗客は降機し空港ゲート内で待機します (TIJ 着 00:35=TIJ 発 02:15)。

米国経由便の情報

コンチネンタル航空 CO

往路 CO006 : 成田 15:55→ヒューストン 13:50

CO2489 : ヒューストン 15:45→メキシコシティ 18:05

復路 CO1025 : メキシコシティ 06:50→ヒューストン 09:09

CO007 : ヒューストン 10:50→成田 14:20 (翌日)

アメリカン航空 AA

往路 AA176 : 成田 11:30→ダラス 09:00

AA675 : ダラス 12:20→メキシコシティ 14:50

復路 AA1066 : メキシコシティ 06:25→ダラス 09:05

AA061 : ダラス 12:05→成田 15:00 (翌日)

デルタ航空 DL

往路 DL284 : 成田 15:30→アトランタ 09:20

DL367 : アトランタ 19:30→メキシコシティ 22:10

復路 DL364 : メキシコシティ 07:30→アトランタ 11:45

DL281 : アトランタ 13:55→成田 16:55 (翌日)

米国経由便利用のプラスとマイナス

1. 料金が安い場合が多い(時期により変動しますが)。
2. 到着地はメキシコシティのみならず、カンクンやモンテレイ、グアダハラなどメキシコ主要都市へ直接フライト出来る(メキシコシティとのコンビネーションも可)という利点があります。
3. どの米国経由乗継ぎ便でも入国検査はそれほど厳しくはありませんが、CO、AA、DL とともに現在、同日乗継ぎの場合はスルーチェックインになり、成田で荷物を預けて受け取るのは到着地のメキシコシティです。他方、乗り継ぎで JL=MX や KE=AM などと航空会社が変わる場合はスルーチェックインにならず、乗継ぎ空港にて荷物のピックアップと再度のチェックインが必要です。
4. チェックインされた荷物はその後、官憲のエックス線検査を受け不審な荷物は当人立会い無しで官憲が合法的に開ける事が出来ますので、鍵は掛けられません。施錠してある場合は無理にねじ開けられます。要注意です。

5. 米国発便では航空会社にチェックイン後、搭乗ゲートに行く前に全員靴まで脱がされる身体検査や手荷物検査がありますので、ご注意ください。

JAL 便の情報

どうしても JAL 派には、行きはバンクーバー経由、帰りは通常ロサンゼルス経由となります。夏時間中はバンクーバー乗継ぎも出来そうです。また、サンフランシスコ経由もありますが、ロス経由がお勧めの様です。

往路 JL18 : 成田 17:50→バンクーバー 10:30

MX981 : バンクーバー 12:40→メキシコシティ 20:00

復路 MX900 : メキシコシティ 08:10→ロサンゼルス 10:10

JL61 : ロサンゼルス 13:20→成田 16:50 (翌日)

復路 MX980 : メキシコシティ 07:25→バンクーバー 11:10

JL017 : バンクーバー 12:45→成田 14:35 (翌日)

なお、JAL メキシコ支店は 3 月 26 日に営業を停止しました。今後はメキシコ市の総代理店や米国内のサービスセンターへの無料電話で案内を受ける事が出来ます。

JAL メキシコ国内総代理店

OITSA: OPERADORA INTERCONTINENTAL TURISTICA S.A. DE C.V.

営業時間: 09:00-18:30 (土日祝を除く)

電話: (55) 5242-0150 (日本語対応は現在なし)

米国サービスセンター

予約・案内: メキシコからダイヤル 01-800-681-9230

営業時間(メキシコ時間): 07:00-20:00 (年中無休)

マイレージバンク: 01-800-681-9240

注: サマータイム時には上記時間が変更される。

さようなら直行便、また会おうメキシコ

幹事 鴻巣勝明

1972 年から 38 年間飛び続けて来た JAL メキシコ直行便が 1 月 15 日、メキシコからの帰り便を最後に運行停止となりましたが、その前夜にメキシコ市の日墨会館で 100 人以上の JAL フアンが集まり“さよなら会”が行われました。ありがとう、頑張れの会でもありました。

日系旅行社の方々が現地の皆さんに呼びかけ、到着したばかりのクルーメンバーも会館に直行しご一緒されました。38 年間日本とメキシコを飛び続け空の架け橋をして頂いた JAL は、単なる飛行機の便だけではない心の支えとなっていたのです。日墨交流 400 周年を記念するこの時期に、JAL のメキシコ直行便が無くなるのは何とも残念至極ではありますが、メキシコが無くなった訳ではありません。これからも引き続き皆さん、メキシコを愛し続け様ではありませんか。(了)

カルデロン大統領、資本財生産と技術・輸出貢献を賞賛

メキシコ三菱電機 鉄道車両電機品専用工場の増設披露式

メキシコ・日本アミーゴ会会員 櫻田 武

2010年1月14日、Felipe Calderon Hinojosa メキシコ大統領は Jose Calzada Rovirosa ケレタロ州知事、Gustavo Nieto Chavez SJR 市長、小野正昭日本大使、三菱電機宗行満男副社長他多数の来賓と共に、メキシコ三菱電機 (Mitsubishi Electric de Mexico S.A. de C.V. 高田明夫社長) の San Juan del Rio 市 (SJR—Queretaro 州) の第2工場稼働開始にあたり、同工場をつぶさに視察後、操業披露のテープカットをし、資本財投資歓迎・実績賞賛・2010年幕開け期待で、20分以上の熱弁をふるった。このイベントはメキシコ D.F. での TV でも、なんと異例の 20分という長きにわたり工



場ライン視察と演説のシーンが放映された由。

↑左から小野日本大使、宗行三菱電機副社長、カルデロン・メキシコ大統領、カルサダ・ケレタロ州知事 (写真は Queretaro 紙)

メキシコ三菱電機は 1976 年に設立 (本社・第一工場は Edo. de Mexico 州 Tlanepantla 市)、1979 年には SJR 第1工場を鉄道電機品並びにエレベータを主軸にした製造工場として開設・生産してきたが、この度は同じ SJR 工業団地内で徒歩数分の近隣敷地約 26,000 m² に延べ 13,000 m² 強の鉄道車両電機品 (主電動機及び VVVF 電子制御装置一式) の一貫専用生産ラインを開設したものである。

創業以来 30 余年、メキシコ国内では、メキシコ市メトロの 3 号線から 11 号線 (更に 12 号線は建設中)、A 線と B 線^(注) (以上の全線総計 220 km。因みに東京メトロとほぼ同 km)、さらには交流電化近郊通勤線 (Buena Vista 駅から北へ Huehuetoca 駅まで約 50km—2008 年 6 月開業) の車両電機品、トロリーバス、並びに多機種に互るエレベータ・エスカレータの国産化投資と技術者育成・技術移転と生産・保守サービスに一貫して従事してきた。

(注)A/B 線は鉄輪の近郊通勤用大型車両。他はゴムタイヤ車輪。

一方で輸出競争力も付けてきており、三菱電機最新技術の電機品の一端を担い、車両モータを SJR 工場生産しアジア始め世界各国に輸出 (NY メトロ Long Island 線だけでも 3,500 台—2006 年 3 月時点) してきている。輸出は車両品だけでなく、エレベータセットも毎年数百セット北米・中南米諸国に輸出を続けてきた。

今回の生産力強化の投資は、世界的課題のエコ時代に向けて計画目白押しの各国輸送力強化 (各国とも大都市内及び近郊輸送では自動車渋滞と CO2 削減・大気汚染防止でメトロ化。都市間輸送では超高速鉄道—中国始めア

ジア諸国、当面の南米諸国の他北米だけでも 13,000 km の計画)による課題解決の一端を担おうというものである。



この間の事情を踏まえて、カルデロン大統領は『“インフラ・資本財投資に注

力し雇用の確保増大を図る”という就任当初からの政策に沿

↑カルデロン大統領の熱弁 (Noticias SJR 紙) うものである。』

『品質とコスト両面を以って世界の市場でも戦える実績を示してきた資本財国産メーカーである三菱電機が、時宜に則した投資を 1 億 1 千万ペソ実現したこと、それもこの長引く不況下にあつて、300 人以上の直接の新規雇用創出である。しかも、高付価値品の国産であるから周辺の関連産業への波及効果を合わせると、創出雇用は 900 人にも及ぶものである。』

『この Queretaro 州 San Juan del Rio 市への事例をはじめとして、外国資本の導入を積極推進して雇用の拡大、格差の縮小、そしてメキシコの発展へまい進する。2010 年は転換の年にしたい。新しい希望でメキシコの将来を拓いていこう』という熱弁であった。

時節柄厳重な警備体制下の披露式の後、州知事、SJR 市長、日本大使ら多数の来賓始めの参加を得て、SJR 市内の会場で盛大なレセプションが開かれ交歓が行われた。日本からの関係参加者と共に第一期工場創設の責任者であった下名も又一入の感慨に浸っていた。

社員の中には 20 年以上、15 年以上の勤続者も結構な人数いて、中堅技術者、管理者として立派に成長している。また、この地方の街並みにも大発展がみられ、中堅層・中間層の充実が実感されるように、国力の伸長も著しい。メキシコが工業力でも世界にまた飛び出す日が近いという予感を一杯に抱いて、嬉しい帰途に就いた次第。(了)

お知らせ 「空から見るメキシコ市の今昔」

(空撮写真 1927~2012 年のウェブ公開)

メキシコ市を上空から撮影した貴重な写真 17 葉を、アミーゴ会ウェブに掲載します。鴻巣幹事のご尽力で、公開の許可をご友人の Gilberto さんから得ました。メキシコ市の今昔をぜひご家族ともどもお楽しみください。詳細はメルマガニュースでお知らせしますが、一部を下記に独占先行公開します。ご感想は如何でしょうか。

アンヘルスの塔：1927 年 (左) と 2012 年 (右)



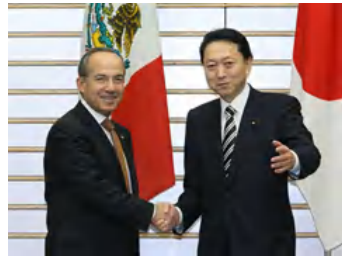
カルデロン大統領、公式訪日の記録

幹事 河嶋正之

カルデロン大統領は1月31日から2月2日まで、公式実務訪問賓客として夫人とともに訪日し、天皇皇后両陛下下御会見・宮中午餐に出席したほか、鳩山総理との首脳会談・夕食会、衆参両院議長との会談を行いました。また、皇太子殿下とともに「日本メキシコ交流400周年特別展」を視察し、国連大学で気候変動問題について講演しました。さらに第28回日墨経済協議会の歓迎昼食会で講演し、日本企業関係者とも懇談しました。各種メディアの取材にも応じるなど多忙な日程をこなした大統領には、閣僚5人(外務・財務・経済・通信運輸・農牧)、上院議員3人、財界人50人以上が随行しました。本稿では大統領の日本滞在中の発言概要を任意に取りまとめました。

日墨両国間のさらなる連携を確認

日墨首脳会談(2月1日)では①戦略的グローバル・パートナーシップの構築、②日墨経済連携協定(日墨EPA)の活用を含む経済関係の拡大、③気候変動問題、特に国連気候変動枠組み条約第16回締約国会議(COP16)に向けた協力



について意見交換が行われ、会談後に『21世紀における戦略的グローバル・パートナーシップ及び経済成長促進に関する日本・メキシコ共同声明』が発表されました(詳細: http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mexico/visit/1002_ks.html)。

戦略的グローバル・パートナーシップの構築に関しては、軍縮・不拡散、国連改革、人間の安全保障、日墨パートナーシップ・プログラム、APECなどについて両国の連携が確認され、また気候変動問題については、本年末にメキシコが議長国として開催予定のCOP16の成功に向けた戦略について意見交換がなされ、全ての主要排出国の積極的な行動および気候変動に対し脆弱な国々(後発開発途上国、小島嶼国)に対する配慮の必要性について認識を共有したと、外務省は発表しています。

日本企業の投資拡大に期待

第28回日本メキシコ経済協議会が2月2日に東京で、カルデロン大統領の訪日にあわせて両国経済界から約170人が出席して4年ぶりに開催されました。



日墨経済協議会では①メキシコ経済の展望、②日墨EPAとビジネス環境の整備改善、③グローバル戦略下のメキシコ投資の位置づけ、④新たなビジネスの展開をテーマに議論がなされ、日墨EPAを契機に深化した両国経済関係の一層の強化にむけた取り組みが確認されました。

カルデロン大統領は歓迎昼食会で講演し、メキシコ経済は回復に向かいつつあり、かつ中国やインドなど新興国と比較して、メキシコはマクロ経済の安定性や事業コストなどの面で優位にあるとして、日本企業のメキシコへのさらなる投資拡大に期待する旨を表明しました。また、自由貿易堅持の重要性に言及し、日本から輸入する中間財によりメキシコ製造業の競争力が強化されて対米貿易の黒字に貢献しているとの認識を示しました(詳細は「日本経団連タイムズ No.2984:2010年2月11日付」<http://www.keidanren.or.jp/japanese/journal/times/2010/0211/02.html>)。

御宿・大多喜の町民をメキシコに招待

カルデロン大統領は2月1日、御宿町の石田町長と大多喜町の飯島町長一行の表敬訪問を受け、都市開発に関する協力と経験の交流の重要性について認識を一つにしました。大統領は両町が1978年以来アカプルコおよびクエルナバカと姉妹都市であることに言及し、この面談が両国民の兄弟愛を確かめるものだと述べ、また、御宿町に寄贈されたラファエル・ゲレロ作の「抱擁」像は両国民の歴史的友情の証であると述べました。両町長は大統領によるメキシコへの招待を受け入れ、独立200周年と革命100周年の記念行事として訪墨する予定です。



(注:本項は「大統領府2月1日付コミュニケCGCS-029」による)

特別展「ガレオン船が運んだ夢」を参観

カルデロン大統領は皇太子殿下とともに「日本メキシコ交流400周年特別展:ガレオン船が運んだ友好の夢」(たばこと塩の博物館主催。会期:1月23日~2月28日)http://www.jti.co.jp/Culture/museum/tokubetu/1001_event/index.htmlを視察し、記念式典で400年前の偉業を称えました。



式典の様子を伝える毎日新聞2月1日付記事「皇太子さま:メキシコ交流展式典に出席」を以下に転記します。

『皇太子さまは1日、たばこと塩の博物館(東京都渋谷区)で開かれた日本メキシコ交流400周年記念特別展「ガレオン船が運んだ友好の夢」開催記念式典に出席した。

来日中のメキシコのカルデロン大統領夫妻も同席した。

皇太子さまは式典で「日本メキシコ交流400周年の関連では、昨年、日本において種々の行事が開催され、メキシコでもサクラの記念植樹など意義深い事業が行われたと伺っております。この特別展をはじめ、さまざまな事業を契機として、日本とメキシコの相互交流と友好がますます深まることを心から願っております」とあいさつした。(真鍋光之) (注:写真は外務省、日本経団連、大統領府のウェブより転載。なお、国連大学講演を含めカルデロン政権の環境政策の概要について次号でお伝えする予定です) (了)

事務局からのお知らせ

幹事会の決定により当会表記を次のように改めます。
(旧)メキシコー日本アミーゴ会の「ハイフン(-)」を
(新)メキシコ・日本アミーゴ会の中点(・)とします。

FOODEX2010のメキシコ展示館

幹事 伊藤 勇

第35回国際食品飲料展 Foodex2010 は去る3月2日から5日まで4日間、千葉県の幕張メッセで開催され、メキシコは農業・牧畜・農村開発・漁業・食糧省 SAGARPA と PROMEXICO (メキシコ経済省・外務省主導のメキシコ版 JETRO) が5年ぶりにひとつの展示館を設置し出展しました。本稿はメキシコ大使館農務部勤務の伊藤幹事の報告です。

メキシコより SAGARPA の Francisco Mayorga 大臣、バハカリフォルニア州知事、メキシコ水産庁 CONAPECSA 長官、PROMEXICO 代表等が来日、初日の展示館オープニングセレモニーでテープカットを行った。



メキシコ館は床面積が約1,500平米あり、イタリア館の4,000平

米、米国館やスペイン館の2,000平米には及ばないものの、ゆったりとしたスペースをオープンスペースでデザインした出展社用のブース、中心部には大きな厨房を設け、メキシコより来日した7人のシェフが牛豚肉やエビ等の展示食材を調理して来場者に試食してもらうなどのサービスを提供。又、今年は日墨経済連携協定(日墨EPA)発効5年経過の年で、6年後以降については牛豚肉等の優遇関税や枠の見直しという両国間の案件を控えているだけに、日本の農水省も日本市場に参入しているメキシコ産農畜産物の現状についてはかなりの関心を寄せ、初日は同省船山政務官等幹部もメキシコ館を訪問、メキシコ産農産物の豊富さには感心された様子。

総重量8トンの展示貨物

メキシコ館の出展企業は約80社で、うち豚肉7社(メキシコ豚肉輸出企業協会 MPEA: Mexican Pork Meat Exporters Association 加盟企業のソノラ州6社とユカタン州1社)、牛肉6社、アボカド11社(アボカドオイルを含む)、テキーラ・メスカル・ラム酒など17社。その他コーヒー、バニラ、ライム、マンゴー、唐辛子ソース、うちわサボテン(ノバリート)、ライム、きゅうり、トマト、ブロッコリー、乾燥トガラシ、ゴマ油、チア種、アガベシロップ、味付け豚肉缶詰、チョコレート、バナナ、冷凍エビ、生アワビ、生伊勢海老、生ミル貝、冷凍果物など、全てメキシコより空輸で、総量約8トンの貨物(メキシコ空港から成田経由幕張まで合計費用1,200万円、荷受人はメキシコ大使館農務部)。

メキシコ性の克服 !?

しかし、展示用サンプルとしての輸入であっても検疫面での特別扱いは無く、或る出展者が空輸した牛肉に本来なら別の動物衛生証明書に記載されているべきオックステールが混入しているのが見つかり、成田動物衛生検疫所では「何故このようなことが起きたのか現地施設の理由説明を詳しく説明されたし」と厳しい要請。この旨現地には知らせたところ「・・・それならそのオックステ

ールを破棄してしまえば・・・」との返事。「そんな行為はメキシコの衛生管理などを含む企業の経営姿勢が問われることなり、逆効果も甚だしい・・・」などと突っ返したら即翌日に、何故かかるミスをしたのかの理由、又その改善策を示した詳しい回答並びに衛生証明が到着。難なく通関パスで、一件落着。

生鮮海産物を水槽展示

又、今回の出し物の一つはバハカリフォルニア州からの生伊勢海老、アワビ ミル貝やシナロア州からの冷凍エビ等の海産物。特に伊勢海老とアワビはカリフォルニア半島中ほどの海岸で獲れる天然の大型サイズで、この類の海産物を手掛ける専門商社の支援で、現地の海で捕獲されたものを展示館内に設置した水槽に展示。隣接する厨房で調理、来場者に試食してもらいました。又、テキーラ部門では出展17社提供の各種銘柄を試飲用カウンターバーに陳列、テキーラ研究家などがメキシコの生産地ハリスコ州のテキーラ生産現場を紹介するとともに、来場者に実際に試飲してもらうなどで大好評。

主な対日輸出品：上位10品目の概況

日本市場におけるこれらメキシコ産品の輸入状況を参考までに記します。2009年通年の葉タバコ等を含む農産品輸入額は6億6千万ドルで08年比13%減。輸入額の多い上位10品目(1千万ドル以上)は次のとおり。

○豚肉(内臓を含む)：09年の輸入量は4万4千トンで08年比22%の落ち込み。メキシコに端を発したインフルエンザの影響で昨年5月以降の輸入が急減したのが原因。とはいえ日本に輸入されるメキシコ産農産物全体の40%を占める。とんかつ専門店サボテン等とんかつ料理に使われるなど一般に知られつつある。豚コレラの清浄地域であるソノラ州とユカタン州の7社が対日輸出促進組合 MPEA



を結成して、日本での販促活動に力をいれている。

○アボカド：日本に輸入されるアボカドの97~98%をメキシコ産が占め、産地はミチョアカン州がほとんど全量を占める。チリやニュージーランドものがこれに次ぐが、脂肪分と味の面でメキシコ産が優れている。

○牛肉(内臓を含む)：05年発効の日墨EPAの優遇関税効果で輸入量は年々増えてきており、昨年は1万3千トン。このうち3千トン余りが牛舌、腸などの内臓で、仙台の牛舌料理店や福岡に多いモツ鍋料理店などに需要が多い。又、牛肉はゼンショーグループの牛丼チェーン店などに使われるなど、一般に知られるようになりつつ

ある。尚牛肉の輸入増加につれて、メキシコ産の馬肉(内臓を含む)の輸入量も増えている。

○マグロ類：カリフォルニア半島エンセナダ沿岸で獲れる蓄養マグロ(クロマグロ)が空輸されているが、5年前に比べ数量は半減。09年は2千トンが輸入された。

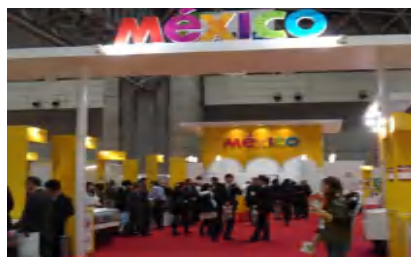
○イワシ・イカ・ウニ・エビ：太平洋岸で獲れるものがほとんどで、冷凍もの。

○カボチャ：ソノラ州産ものが多く、日本の冬場である11月ごろから2~3月ごろまでが入荷の最盛期。対日輸出ではニュージーランドとメキシコが主要供給国となっている。日本の種をつかっているのが日本のカボチャと変わりが無いのが特徴。

○メロン：ソノラ州産が多く、ハニーデューメロンとして知られるメキシコ産は年間2万トン以上輸入されていて、対日輸出の主力製品となっている。

○マンゴー：地中海ミバエの混入を防ぐため、現地出荷前に45度の温水に90分間浸けるなどの処理をしたものでないと日本での輸入は許可されない。現地での処理施設が増えるなど出荷体制が整いつつあり、このところ輸入量が増えている。3月ごろから

グレロ、ミチョアカン州などからの輸入が始まり、その後産地が北に



移動してナヤリット、シナロア州からの出荷が8月ごろまで続く。収穫最盛期の5~6月には船便での輸入が増え価格も安くなる傾向にあるが、収穫期になると産地が台風などに襲われる場合があり入荷に異常を来すことがある。

○アスパラガス：グアナファトやサンルイスポトシ州からのものが多く、収穫時の根元のカットなど品質改善がみられたことも起因し、輸入量は増える傾向にある。

○テキーラ：テキーラの原産地呼称評議会(CONSEJO REGULADOR DE TEQUILA：CRT)が原料であるアガベ100%仕様のテキーラ生産を促進、又、対日では日墨EPAで輸入関税16%が原産地証明を添付すれば免除されることになったことも影響し、輸入はこのところ増え続け、ビールの輸入額を上回る程になっている。

又、テキーラの蒸留原料となるアガベを加工して作られるシロップも好評で、将来的には有望な対日輸出品目のひとつだが、糖度を示すブリックス値が70以上ということで50%もの高関税がかけられ、日本市場での拡販面で障害となっている。このため日墨EPAの再協議の議題の一つに加えて、日本側に改善策を要請中。(了)

(写真は筆者提供)

事務局からのお知らせ

○荒木幹事のご退任：長年関西地区の幹事としてご活躍されてきましたが、ご都合により3月に退任されました。長年にわたりご尽力頂き誠に有難うございました。今後とも会員としてご支援いただきます。

○アミーゴ会の電話を固定電話に一本化し、これまでのSKYPEを5月を以て廃止します。ご注意ください。

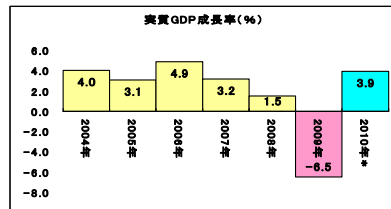
固定電話番号：0467-25-0295

メキシコ経済トピックス

幹事 河嶋正之

2009年のGDP成長率：マイナス6.5%—戦後最悪に

メキシコ経済は2009年通年でマイナス6.5%と第二次大戦後最悪の成長を記録したが、政府/大蔵省や中銀、民間が予測していたマイナス7%弱までは低下しなかった。マクロ指標的には、米国経済の復調もあり自動車を主体とする輸出が大きく回復し、失業率も5.43%



(2010年2月-NEGI3月25日)と低下傾向にある。

鉱工業、サービス業も緩やかに拡大しているが、輸出(外需)に比して小売販売(内需)の回復は未だ緩慢で、総じて外需が経済を牽引している状況だ。

2010年は4%近傍の経済成長を見込む

メキシコ大蔵省は2月17日、今年の実質GDP成長率見通しを3.0%から3.9%に上方修正した。他方、中銀は

3.2~4.2%成長を見込むが、カルステンズ総裁は3月19日に4.0~5.0%との見解を明らかにした。民間の平均

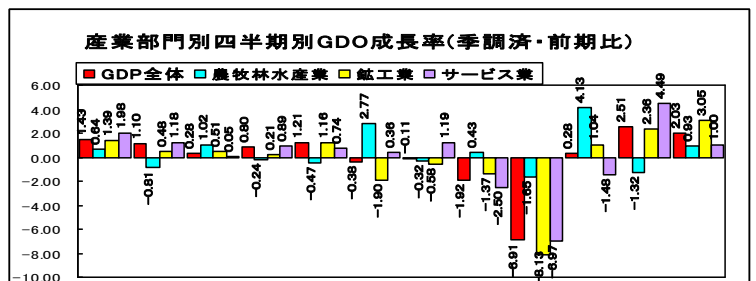
	GDP成長率	インフレ率	正規雇用増
政府(大蔵省)	3.90	4.75	38.0
中央銀行	3.2-4.2 (4.0-5.0)	4.75-5.25	35.0-45.0
民間調査	4.08	5.28	39.5

見通しは4.08%(4月5日発表の中銀アンケート)と、総じて楽観的な見方が多くなっている。しかし、09年経済の低落が余りにも大きく、08年水準に経済活動が回復するのは早くも11年以降になると見られている。

(注：正規雇用増は社会保険加入労働者数=万人)

2009年第4四半期：2.03%成長(季調済前期比)

実質GDP成長率を四半期別に季調済・前期比で見ると09年第1四半期にマイナス6.91%まで落ち込んだが、第2四半期以降は順次0.28%、2.51%、2.03%とプラス成長が続いた。第4四半期の動向を産業部門別にみると、農林水産業がプラス0.93%、鉱工業が同3.05%、サービス業が同1.00%を記録した。また、第4四半期の年率換算成長率は8.37%で、前期の同12.25%に続いて高い水準で回復軌道に乗っていることを示している。



(注：07年~09年四半期別 出所：INEGI 2010年3月19日)

他方、第4四半期のGDP成長率を前年同期比でみると、全体でマイナス2.3%となった。産業部門別では農林水産業がプラス2.1%、鉱工業がマイナス1.9%、サービス業が同2.9%だった。しかし、後二者のマイナス幅は第3四半期までと比べると大幅に狭まってきており、米国景気の底打ちに伴い、メキシコ経済も漸次回復している。(了)

“OASIS JAPAN” 設立記念パーティに参加

事務局長 関口重雄

OASIS JAPAN(オアシス・ジャパン)の設立記念パーティ

が3月20日(土)に開催され参加いたしました。本件は先にメルマガニュースでも会員にお知らせしました。



OASIS

JAPAN はメキシコの貧困層に、雨水の取水・浄化機器の製作価格一式5万円を寄贈することを、主たる目的として設立された NPO 法人です。

この機器は製作、維持管理が容易で、雨水を使いますのでランニングコストが少なく、メキシコの方々に大変喜ばれているとの事です。

メキシコ貧困層居住地区には生活用水・飲料水の供給システム(上水道)が整備されてなく、住民は遠方の水場に行き水を運ぶため多大な労力を使うか、又は水の購入の為に資金を使わざるを得ない状況です。これを解消するために2009年7月から、アミーゴ会会員の茂見智子さんが代表となり有志を募り、OASIS JAPAN の設立準備を始め、今次設立の運びとなったものです。当会会員の水野さんも幹事として積極的に活動されています。

その活動は具体的には、OASIS JAPAN の設立趣旨に賛同する会員を募り、会費を集め、メキシコの NGO「IRR」のイスラ・ウルバナーさんと共にトラパルパン地区に雨水の取水・浄化機器を寄贈しております。順次、寄贈地域を拡大致します。既往実績は12件、本年度は20件実現する予定です。OASIS JAPAN のスタッフも、場合により現地に赴き、機器の製作、据付作業を行っています。

OASIS JAPAN の活動状況の詳細、連絡先、メキシコの受け皿他は <http://imagene.jp/npo/oasis/event.html> 又は現在更新中の <http://oasis-japan.or> をご参照ください。

設立記念パーティには約100名が参加。アミーゴ会からは鴻巣幹事、伊藤幹事、大森会員、関口事務局グループ長が参加いたしました。茂見代表のご挨拶、駐日メキシコ大使代読の祝辞、早稲田大学名誉教授平野健一郎氏、

津田塾大学オープンスクール講師サラジーン・ロシト氏のご挨拶がありました。そして、



水不足で悩むメキシコの方々の実情をビデオで紹介され、本プロジェクトの有用性を改めて認識いたしました。その後、メキシコの音楽、ダンス他がご披露され、同時に募金が行われ約30万円弱の浄財が集まったとの報告を受けております。

OASIS JAPAN の幹事の方々は若いばかりで、お勤めをしながらヴォランティアで、本事業を実施しております。そのご努力と、実行力には頭が下がる思いです。

(掲載写真は茂見智子会員提供)

『ドン・ロドリゴの幸運』をメキシコに届ける

幹事 鴻巣勝明

今年も日墨交流400周年の記念事業は、メキシコ独立200年、メキシコ革命100年と合わせて色々な行事が予定されていますが、昨年千葉県は400年前の御宿での日墨の出会いを綴った“ドン・ロドリゴの幸運”を発行されました。

大変意義のある事業との判断から、アミーゴ会は千葉県の依頼を受けて、この日西両国語で綴った600冊の本をメキシコ国内に配布するという事業を行いました。メキシコへの本の輸送はメキシコ大使館からのサービスを頂きました。

メキシコ国内での配布は部数が限られていましたが、メキシコの実行委員会全メンバー、主要大学日本語センター、日墨学院(リセオ)メキシコ日本商工会議所(カマラ)日墨協会等にお届けする事ができました。



右の写真は日墨学院でのスペイン語版270冊の引き渡し式(左から鴻巣、河上学院長、遠藤会員、川村事務局長)と、本に入れたアミーゴ会の葉です。

この本が日墨間の更なる交流と友好に繋がる事を期待します。(了)

[第1号の編集注を再掲: 『ドン・ロドリゴの幸運～交流の始まり～』(作: 小倉 明、絵: 山口まさよし、企画編集発行: 千葉県総合企画部報道広報課)は2008年9月、『ドン・ロドリゴ日本見聞録』など諸資料に基づき執筆され、児童生徒向けに刊行された。日本語版は汐文社より一般販売されています。定価1300円]

なお、リセオからは3月24日付で、河上エクトル学院院长より上原会長宛に「本学院における今後のさらなる文化交流・親睦促進のため、教材・貸し出し図書として最大限活用します」との感謝の手紙が寄せられました(本稿: 事務局)。

= 編集後記 =

『アミーゴ会だより』の第2号(4月号)が完成しました。第1号(1月号)が分不相応の力作? だっただけに、続刊につき編集部は余り自信がありませんでした。しかし、会員諸氏の素晴らしいご投稿が集まり、今度も正真正銘の大作! となりました。世に「三日三月三年」と申します。7月発行の第3号に向けて会員諸氏のさらなるご理解と協力を期待します。引き続き、ご意見とともども玉稿&写真(少々ツヨキの)編集部宛てにお送りください。 [か]